一

（聞き取り問題）　放送は、試験開始二分後に始まりますので、それまでに後の問いを読んでおきなさい。

問1　濡れたままの布団を使用するとどのような弊害が生じるか、適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア　アレルギーを引き起こす。　イ　中綿がかたよる。
ウ　悪臭が発生する。　エ　カビが繁殖する。

問2　濡れた布団を乾燥させる際に初めにすることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア　布団を広げて天日干しにする。　イ　布団を広げて扇風機で風を送る。
ウ　タオルを押しつけて水分を取る。　エ　タオルで強くこすって水分を取る。

問3　布団を乾燥させる際に最も心がけなければならないのはどのようなことか、二十字程度で説明しなさい（ただし句読点等も字数に含みます）。

問4　布団がぐっしょり濡れてしまった場合に布団用大型乾燥機を利用することがなぜ良いのか、十字以内で答えなさい（ただし句読点等も字数に含みます）。

問5　次のA～Dのうち、大型洗濯機で洗えるものには○を、洗えないものには×を記入しなさい。
A　和布団　B　夏用布団　C　羽毛布団　D　羊毛布団

問6　大型洗濯機で絶対に洗ってはいけない布団にはどのような表示があるか、答えなさい。

問7　この文章のタイトルとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア　不意の雨で濡れた布団、復活させる方法は？
イ　快適な睡眠をとるためのふかふか布団を作る方法は？
ウ　布団瞬間乾燥、コインランドリーを活用する方法は？
エ　梅雨シーズン到来、布団を乾燥させる方法は？

※スクリプトは次の資料を元に作成（約九〇〇字）。著作権の関係により、掲載はできません。

ウェザーニュース「不意の雨で濡れた布団、復活させる方法は？」（2022年8月21日）

二

次の各問いに答えなさい。

問1　次の――部a～cが修飾している箇所を、一文節で抜き出しなさい。
剣道のa大会で優勝したので、お祝いとしてb家族でお寿司を食べに行ったが、c父がお財布を忘れた。

問2　次の――部の活用形を後の【語群】から選び、それぞれ記号で答えなさい。なお同じ記号を何度使っても構いません。
①車のエンジンが掛からず、途方に暮れる。　②明日は絶対に休みたいと考えている。
③質問があるなら聞けばいいと言われた。　④ペットとしてウナギを飼い、十五年になる。
【語群】ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　仮定形　カ　命令形

問3　次の（　　）内に適切な語を補い、慣用句を完成させなさい。
①社交性のある彼は、驚くほど顔が（　　）。
②今回のことは水に（　　）ので、これからは気をつけるように。
③子どもの頃からの付き合いである彼は、気の（　　）友人である。

三

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

※ 重松清『季節風 春』より出題（約3500字）。著作権の関係により掲載はできません。

問1 ～～～部a「ノキシタ」、b「支度」、c「間遠」、d「キシベ」のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 [I] [II] に入る語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

I　ア　ゆっくりと　　イ　はっきりと　　ウ　とっぷりと　　エ　たっぷりと

II　ア　せかせかと　　イ　いそいそと　　ウ　ばたばたと　　エ　そそくさと

問3 [A] にあてはまる表現として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　いつでも好きな時に食べられるようにと気をつかったつもりなのだ

イ　ほんの少しでも食事時の寂しさをやわらげようとしてくれたのだ

ウ　貧しさに耐えなければならないことをわびる気持ちもあったのだ

エ　母親らしいこともしてやれないとやりきれない思いだったのだ

問4 ――部①「お母さんの鏡台に近づくのが常だった」とあるが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　私は大好きな母のために、いつか鏡台を買ってやろうと思っていたので、友だちの家に行くたびに鏡台を見せてもらい、どのような鏡台を母に贈ってあげればいちばん喜んでもらえるのかを考えていたから。

イ　私は母が鏡台に向かって化粧品を使っているのを見たことがなかったので、友だちの家の鏡台にある化粧品や香水の瓶を見て、自分の母が鏡台を使っている姿を想像することを楽しむようになっていたから。

ウ　私は自分の母のことが大好きだったが、工事現場で働く母の帰りはいつも遅くて私は寂しい思いをしており、その寂しさを克服するために、友だちの家の鏡台に漂う「お母さん」のにおいを嗅ぎたかったから。

エ　私は鏡台に向かって化粧をしているような「お母さん」に憧れているが、私の母は鏡台を使うような生活をしていなかったので、友だちの家の鏡台を通して、「お母さん」という存在を実感したかったから。

問5 ――部②「うれしくなって、寂しくなって、頬がゆるんで、うつむいてしまう」とあるが、これは私のどのような心の状態を表しているか、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　憧れの「お母さん」の香りによって、わくわくしたりうっとりしたりする感情と、私の大好きな「母」には「お母さん」を想像させる香りはないことに失望してしまう感情との間を行き来している。

イ　華やかで甘い化粧品の香りによって、「お母さん」の姿に憧れる理想と、毎日土をこびりつけて工事現場から帰ってくる「母」の土くささから突きつけられる現実との間を行き来している。

ウ　化粧品の甘い香りに包まれることによって、友だちの華やかな「お母さん」に憧れる感情と、固形の石鹸をこすりつけるようにして手を洗う母の姿に落胆してしまう感情との間を行き来している。

エ　友だちの家にうっすらと漂う化粧品の甘い香りによって、心がどきどきする緊張感と、土のにおいの染みついた部屋に住まなければならない生活への嫌悪感との間を行き来している。

問6 ――部③「二人きりの家族は・・ひとがいない」とあるが、これはどういうことか、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　学校で起きたことを母に聞いてもらうのが私の楽しみだったが、母は関心を示してくれないことがあるので、私はほかにも家族がいてくれればよかったのにと思うことがあるということ。

イ　私は母と二人で暮らしていて、たまに会話が滞ってしまうようなことがあり、そういうときにあいだに入って二人

の関係の調整を図ってくれるような存在が家にはいないということ。
ウ　仲の良い母と私でも、時には相手の話をいいかげんに聴いていたせいで誤解が生まれたり、いさかいになったりするが、そんなとき二人を仲直りさせてくれる人が周囲にいないということ。
エ　学校でのできごとを私が一度にたくさん話しかけるせいで、母は仕事の疲れをいやすことができず、しだいに私の話を聞かなくなり、そのうち私は話し相手を失ってしまうということ。

問７　――――部④「母が友だちのお母さんに負けているところばかり探してしまう」とあるが、これはどういうことか、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア　母がいないさびしさや不安をやっと乗り越えることができたのに、私の話に相槌すら打ってくれない母に対して憤りを感じて、つい母をこらしめたくなってしまうこと。
イ　女手一つで私を育ててくれている母を心から敬愛しているのに、私を一人にして心細くさせる母の厳格さに抵抗したい気持ちがつい表面に出てしまうこと。
ウ　工事現場で夜遅くまで働いている母のことが大好きなのに、土の汚れにも気付かない母の無頓着さに失望して、友だちのお母さんの魅力をつい思い出してしまうこと。
エ　大好きな母が帰ってくることで留守番の時間の寂しさと不安がなくなったのに、甘えたくても甘えられないやるせなさをかき消すようについ意識が働いてしまうこと。

問８　次の段落はどの段落の前に入るか、その段落の最初の五字を抜き出しなさい（ただし句読点等も字数に含みます）。

うれしいのか悲しいのか、よくわからない。思わず笑っているのか、泣きだしそうな顔になっているのか、鏡に映して確かめるのが怖くて、顔を上げられなかった。

四　次の文章は、内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』の一部です。日本で一九六五年あたりを境にキツネにだまされたという話が発生しなくなった理由について、筆者は複数の説を立てています。以下の文章を読み、後の問いに答えなさい。

※ 著作権の関係により掲載はできません（約２２００字）。

問1　〰〰部a「エンチョウ（線）」、b「種播（き）」、c「ミッセツ」、d「相撲」、e「一律」のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2　［Ⅰ］～［Ⅲ］にあてはまる接続詞を次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい（ただし同じ記号は一度しか使えません）。

ア　なぜなら　　イ　ところが　　ウ　さて　　エ　たとえば　　オ　つまり

問3　――部①「それまでも活字による情報としては新聞、雑誌があった」とあるが、新聞、雑誌のほかに一九六〇年代以前に村人が得ていた情報を二つ含む箇所を、文中から十五字以内で抜き出しなさい（ただし句読点等も字数に含みます）。

問4　――部②「一九六〇年代に入って変化したのは、第一に口語体の情報である」とあるが、どのように変化したのか、本文の内容にあてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ラジオでは聴覚情報を元に各人が状況を想像せざるを得なかったが、一九六〇年代以降に普及した同じ口語体の情報であるテレビでもさらにその必要性が高まり、事実の共有に時間を要するようになった。

イ　ラジオで情報を伝達することによって、聴覚情報を元に各人が状況を想像する必要がなくなったことに加え、一九六〇年代以降に普及したテレビによって均質な視覚情報が提供されて、事実を即時に共有できるようになった。

ウ　ラジオでは聴覚情報を元に各人が状況を想像せざるを得なかったが、同じ口語体であっても、一九六〇年代以降に普及したテレビによって均質な視覚情報が提供されて、事実を即時に共有できるようになった。

エ　ラジオで情報を伝達することによって、聴覚情報を元に各人が状況を想像する必要がなくなったが、一九六〇年代以降に普及した同じ口語体の情報であるテレビでは想像が必要となり、事実の共有には時間を要するようになった。

問5　――部③「主観と主観の間で情報が伝えられる以上、それは当然のことであった」とあるが、その理由を説明した以下の文の［A］［B］にあてはまる言葉を、文中から［A］は二字、［B］は四字でそれぞれ抜き出しなさい。

人間を介する情報伝達では情報が［A］されるため、聞き手は話を聞きながらその話のなかにある事実らしい部分を［B］必要があるから。

問6　――部④「情報に関する新しい作法を生みだした」とあるが、テレビによって新たな作法が生みだされた理由を含んでいる一文の最初の五字を答えなさい（ただし句読点等も字数に含みます）。

問7　本文の内容として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　活字による情報としては、一九六〇年代以前は文語体で書かれたものが一般的であったが、その後漫画雑誌などが普及し始めたことにより、日常的な言葉づかいで示されるものが増加した。

イ　一九六〇年代以前は一時期の天候の変化から一年の気温や雨量の変化を予測していたが、テレビの普及によりその変化を予測する必要がなくなり、自然の情報を読むという行為が衰退した。

ウ　人間を介する情報伝達の面では以前は顔を合わせて対話していたが、電話の普及により音声だけのやり取りに変化したことで、情報が限定されるようになった。

エ　一九六〇年代以降、農民の働き方が変化してきたことや被害を想定した未然防止が可能になったことによって、自然から様々な情報を得る機会が減少した。